

開催日時：平成16年11月15日(月) 17:30~19:30

場 所：マイドームおおさか 8階 研修室

出席委員：池淵委員長、荻野委員、高橋委員、中川委員、増田委員

1. 議 題

- (1) 前回議事要旨確認
- (2) ・二級河川近木川水系河川整備計画(原案)について
 - ・二級河川春木川水系河川整備計画(素案)について
 - ・一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画 流域の現況について

2. 概 要

二級河川近木川水系 河川整備計画(原案)について

二級河川近木川水系河川整備計画(原案)の説明に対し、以下のような意見交換ののち、原案について概ね委員会より了承いただいた。今後、関係機関等との調整を進めていく。

- (委 員) 当面は50mm/hrの洪水に対する治水安全度が未確保の区間で河道整備を行うことになっているが、当然、段階的に1/100に進めていくということが必要になってくると思う。近木川、秬谷川での1/100対応をどう考えているのか。
- (事務局) 近木川本川については概ね 1/100 流量が確保されている。低地に住宅が存在する箇所については、堤防の嵩上げ等に対応するイメージです。
- 秬谷川については、本川合流より右岸は 500m、左岸は 700mより上流で流下能力が不足している。1/100 対応については、基本的には断面拡幅では無く、上流部に存在する田畑の遊水地化も念頭に入れて考えたい。
- (委 員) 河口ワンドについては、整備後の反応を見てアダプティブに変更していく仕組みが必要。自然の営力による変化や地域の人たちがどれくらい手をかけて管理できるかの二つの側面で、常に順応型を考える必要がある。
- (事務局) 本文については、確かにちょっと乱暴な書き方になっているので、二段階に分ける必要があると思う。ワークショップ形式等により、まず整備とか維持管理ができるような計画を策定し、整備後もモニタリングをしていく中で必要に応じて考えていくというような書き方に加筆修正する。
- (委 員) 水質汚濁については、地域全体の問題であるが、河川管理者が様々な形で地域に働きかけることも非常に大事なので、河川管理者の取り組みなどをもう少し強制的に記載すべき。
- 昨今頻発している土砂災害への対策が疎かになっている。どの流域でも上流部には崖が多いので、そういう観点での記載も必要である。
- (事務局) 整備計画でのメニューでは無いが、ご指摘のとおりだと思う。土石流対策テレメーター

等を大阪府も配備しており、これから地元市や地域と一緒に連絡体制等を築いていこうというところなので、「その他の河川整備を総合的に行うための必要な事項」という項目で、多少なりとも盛り込んでいきたい。

(委員) 大筋は、このような形で良いが、本日の指摘部分を修正し、関係機関等と内容を提言、上申するという方向で進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

二級河川春木川水系 河川整備計画(素案)について

**二級河川春木川水系河川整備計画(素案)の説明に対し、以下のような意見交換ののち、今後
も審議を進めていくことを確認した。**

(委員) 現在の河床から2m~2m50cm掘削というのは、護岸の根入れとかは大丈夫ですか。春木川には橋が多くあるが、これらも考慮すると、かなり事業費がかかる川に位置づけられてしまうけれども。

(事務局) 春木川については、下水の取り入れ口の高さなどを考慮し、当初より1/100で改修を進めており、根入れについても掘削を考慮している。また、多数あった橋梁架け替えも、ほぼ完了している。

(委員) 河床の問題については、縦断的な河床の状況を見て、将来、掘ったところが平衡勾配ぐらいに落ち着くような掘り方なのかどうか分からない。掘削により河積を確保しただけでは、縦断的なバランスがとれていないのではないかと。バランスがとれていないと、中小洪水で、ある程度の流砂量がある流量がでた場合、毎年ということはないが、手を加えることを覚悟することとなる。これだけ掘削するのであれば、もう少しきめ細かいチェックが必要。

(事務局) 基本的には現況の平衡勾配を基本に河床勾配をつけている。部分的に堰などの関係で段差がつくところもあるので、今後、現況と計画を入れた資料を作成して、説明したい。

(委員) 河床掘削後すぐに州が形成されるのであれば、治水の観点からは、それでも良いのか。また、環境面では、一気に全部河床掘削するのではなく、左側だけを先行して掘削し、少し逃げ場をつくってから今度は右サイドを掘削するとか、生物が一部、避難できるような形態での工事手法、部分施工といえますか、施工計画みたいな話が大事なのではないか。

(委員) 親水的な整備を行う3箇所について、美しさの概念や自然の形成の概念がだんだん違ってきて、昔は雑草等がきれいに刈り取られ、園路がきちりと整備された状態が美しいとされていた。それに対して最近では、もう少し自然に対する適合性、あるいは共生のレベルが高いほうが美しいという価値判断が変わってきている。そういう視点で見ると、ちょっと作り込み過ぎだと思う。また、あとの管理も大変だと思う。

(委員) 検討の仕方としては、もう少しここから引き算をしていけないのか。もちろん、後の管理をする人や地元の人たちとの協議も踏まえながらということになるのかと思うが。

(委員) 春木川の大きさからでは、この掘削は、ものすごい改変ということになるのでないかと思う。この大きな改変が、あまりにもさらっと書いてあるので、ちょっと違和感を覚える。環境アセスメントをきっちりとやらないと、これだけの工事はなかなか難しいのではないかという気がする。

(事務局) まず、1点目の掘削についてですが、この川は結構、洪水時と平常時の流量差が大きく、洪水時はたくさんの水が一時に流れている。そういう関係があるかもわかりませんが、1～2年ぐらいすると、中に砂州ができて土がたまるという状態です。このことから、結構、再生力がある川だなというイメージを持っている。ただし、掘り方は確かに注意が必要と考える。

それと、親水的な整備を行う3ヵ所のところですが、整備の仕方として近づきやすくするか、しないかというところは、もう少し絵の描き方に工夫が必要。

また、洪水時を考えると「ショートカット部No.2イメージパース」など、若干の不安も残るので、そのあたりをもう少し練っていきたいと思う。しかし、全体としては、基本のコンセプトをできるだけ守っていきたい。

(委員) いま、余裕高をどういうふうに見るかということがあちこちで問題になっている。春木川は掘り込みになっており、余裕高がかなり有効に使えるのではないかと思われるので、流下能力図に余裕高を入れて示してほしい。

(事務局) 堤防天端で見た断面ごとの流下能力ということで、全体に凸凹が上に上がるようなイメージものを作成します。

(委員) 春木川については、まだ1～2回は審議を継続することとする。

一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画 流域の現況について

一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画 について、流域の現況を説明した。今後、治水計画等も含め委員会での審議に向けて資料整理を進めることを確認した。